令和7年度「介護生産性向上推進事業」における介護ロボット導入等による生産性向上のための伴走支援

生産性向上のための業務改善実践報告会

社会福祉法人慈光会
高齢者総合福祉施設ていれぎ荘

目次

1. 法人・施設の概要
2. 活動の背景と目的
3. 活動の内容
    1. 伴走支援開始前の活動内容
    2. 伴走支援の介入の経過
    3. 課題の整理
    4. 課題解決に向けた目標設定
    5. ロードマップの具体的内容
4. 現時点における取り組み
5. まとめ／今後の展望　など

法人・施設の概要

法 人 名	社会福祉法人 慈光会
設　　立	平成８年 ていれぎ荘 開設（松山市水泥町） 平成26年 味酒野ていれぎ荘 開設（松山市衣山5丁目）
施 設 名	高齢者総合福祉施設ていれぎ荘
運営事業	特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、通所介護、訪問介護 居宅介護支援、障害者相談支援、ケアハウス 若年性認知症支援コーディネーター事業
施設の概要	従来型特別養護老人ホーム　59床（4人部屋・2人部屋・個室） 短期入所生活介護　11床（4人部屋・2人部屋・個室）

活動の背景と目的

背景 その①

作業動線が長く死角の多い施設環境による弊害

施設は従来型で多床室が中心。部屋内はプライバシー保護の間仕切り工事済みであるため死角が増えた。4年前に3つの疑似ユニット化から従来型（ユニット分けしない）に戻したことでスタッフの作業動線が長くなった。

背景 その②

業務管理ソフトの導入による業務の効率化・見える化

業務管理ソフトの導入により、業務の効率化・見える化にはつながったが、決められた業務以外のことがしづらく、「介護」が「作業」となり、業務に対する意欲低下・ケアチームの活性化につながらない側面も見えてきた。

背景 その③

生産性向上委員会の始動に合わせ伴走支援を連動

4月に人員体制を変更したことで、職員の期待感と不安感が混在している状況。機能していなかった生産性向上委員会の適正運営化を図り、伴走支援の力を借りることで、「変わるんだ・変えていきたい」という期待感を大きくできるのでは？

活動の目的

介護の生産性向上とは
「介護の価値を高める」こと
→ その結果、ご利用者が尊厳のある生活を送ることにつなげていく

★生産性向上委員会のスタートに当たり、最終的な目標として示した内容

伴走支援開始前の活動内容

○ 委員会のスタート

キックオフ宣言 ➡ 目標と方向性について共有

【 目 標 】

介護の生産性向上とは「介護の価値を高める」こと
その結果、ご利用者が尊厳のある生活を送ることにつなげていく
➡ 職員の業務の効率化・業務負担の軽減がゴールではなく、ご利用者の生活の質的向上が最終的な目標

○ 施設としての生産性向上に関する方向性について検討

① 介護技術の平準化・福祉用具の適切な活用など、基本からの積み上げを行う
② 何らかの「起爆剤」的な介護機器を導入し、職員の意欲を高める

⇨ 作業療法士の介入により、課題と方向性を明確化しよう！ ➡ 早速OTの介入開始
アンケート調査により、課題と方向性を明確化しよう！ ➡ アンケート内容の検討開始

伴走支援開始前の活動内容

○ アンケート調査結果のとりまとめ

・職員に向けたアンケート調査結果の取りまとめ作業を行い、善光会担当者と共有する。

○「伴走支援」開始

・8月18日（月）オンラインにて善光会担当者と初顔合わせ
事前に提出した調査書の内容をもとに、施設の概要と運営状況、介護職員の業務状況、感じている課題とこれまでの取り組み、職員のモチベーション等について共有する。

○ 感染症対策に伴い活動が足踏み状態

・9月上旬から新型コロナウイルス感染症が施設内で拡大し、9月中は感染症対策に追われる。
・9月に善光会担当者が施設現地訪問の予定であったが延期となる。

⇨ 今年度中の到達点は「計画作成」までにとどまる

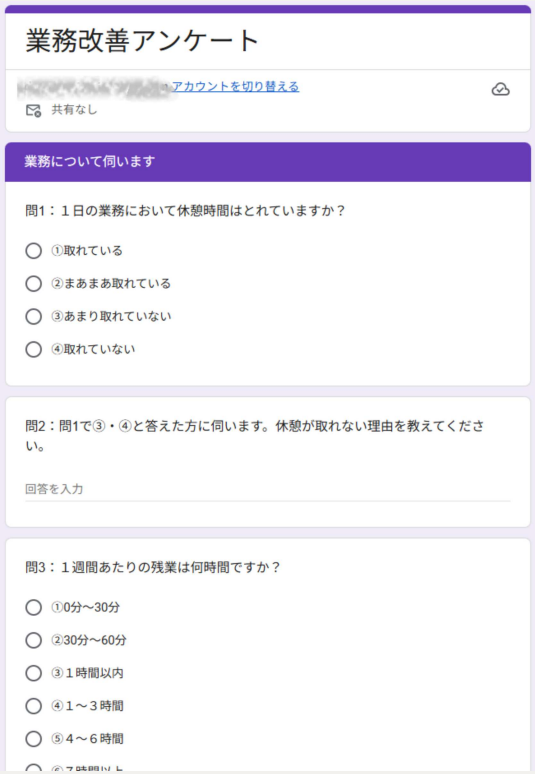
伴走支援の介入の経過

時　期	内　容
令和7年8月18日	【オンライン・ヒアリング】初顔合わせ。施設の概要や現状における課題について共有
令和7年9月	善光総研様による現地視察の予定であったが、施設内の感染症対策により延期
令和7年10月23日	【オンライン・意見交換】検討段階である疑似ユニット化・床走行型吊り上げ式リフトのデモ使用・職員間の情報伝達手段を中心に情報共有と意見交換
令和7年11月20日	【オンライン・意見交換】アンケート結果をもとに、善光総研様より「必要となる場面・機器は「移乗」「インカム」「見守り」が上位」との提案。また取り組みの優先付けの考え方や、中長期的な全体設計（ロードマップ）作成について意見をいただく
令和7年12月23日	【現地視察・意見交換】オンラインにて意見交換をしてきた課題や取り組みについて現地で状況確認。死角が多く作業動線が長い施設環境から、見守り機器や疑似ユニット化について意見交換を行う。また、作成したロードマップについて説明する
令和8年1月27日	【オンライン・意見交換】ロードマップの修正点について確認。3月の成果発表の構成や内容について意見交換
令和8年2月19日	【オンライン・発表に向けて】作成途中の発表資料の内容の確認と修正・追加事項の確認

アンケートの内容

生産性向上委員会が主体となり原案を作成

実施方法：google form(グーグル フォーム)を使用し各職員のスマホを使用してアンケート参加



内容	詳細	設問数
①業務について	休憩・残業・業務量や負担、困りごと・職場環境、設備面・ストレス、整理整頓・労働条件等	１６問
②ケアに関して	やりがい・ケアの統一、意見の反映・多職種連携の有無 本人家族の不安の解消ができているか等	７問
③報・連・相等の組織体制	相談できる職員の有無・人間関係の不安等	４問
④今後の施設について	介護ロボット・ICTの導入の必要性 今後もここで働きたいか・施設に臨むこと等	５問
⑤介護職員限定の質問	どの勤務、業務が大変か・業務管理ソフトの運用について	４問

合計：３６問

アンケートから見えてきた課題の整理

① **移動時間や情報量の削減**

施設内の移動距離が長い、施設構造上の死角が多い、情報量が多いことから業務上の負担感が大きい。それぞれの要素について分散の検討が必要

② **間接業務の非効率と負担**

記録・申し送り・業務上の相談の業務量が多いが、端末台数が少ないことや職員同士のコミュニケーションが取りにくい環境から非効率・不十分になっている

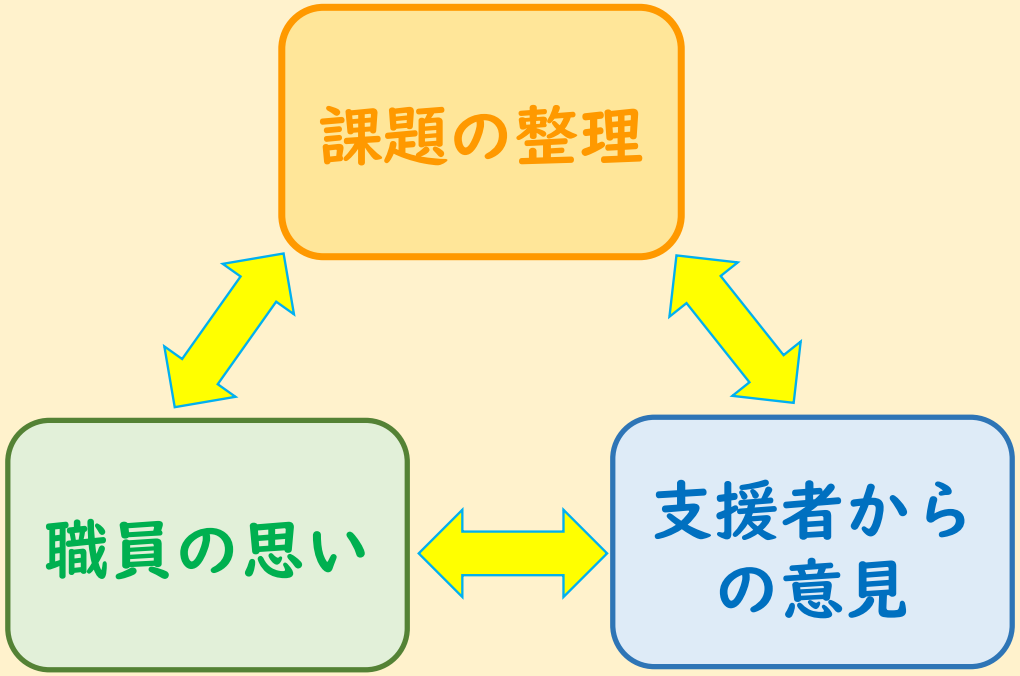
③ **身体介護業務の中でも移乗介助、排泄介助の負担が大きい**

一人での介助が難しいご利用者が増加しているが、他の職員へ応援依頼が難しい環境がある。また、職員の介護技術・知識・能力にも左右されるため介護の平準化が必要

④ **見守り・ナースコール対応への負担**

転倒リスクの高いご利用者や不穏になりやすいご利用者が多く、限られた職員数での対応が難しい。しかし、ナースコールの際に同じ場所に集まったり、対応していなかったりという、適時適切な対応を行いにくい状況がある

課題解決に向けた目標設定



	目　標
目標①	ケアのバラツキを防ぎ、誰が行っても統一した方法でケアができる
目標②	移乗介助・排泄介助の負担を軽減できる
目標③	職員間連携・情報共有の強化

ロードマップの具体的内容

目標①：ケアのバラツキを防ぎ、誰が行っても統一した方法でケアができる

課　題	解 決 策	予測される効果
①② ③④	・グループ（疑似ユニット）化とそれに伴う移動動線負担の軽減 ・インカム導入によりリアルタイムで連絡・相談	・動線が短くなることにより時間の有効活用につながる ・直接介護の時間の増加 ・ご利用者とのコミュニケーション機会の増加 ・ケアのバラツキの防止とケアの統一化 ・職員同士のコミュニケーション、連絡、相談の増加 ・適時適切な支援の提供（ムダなく不足なく）

ロードマップの具体的内容

目標②：移乗介助・排泄介助の負担を軽減できる

課　題	解 決 策	予測される効果
③	・マルチグローブ・ポジショニングクッションの追加購入 ・移動介助に関する基本的な技術と知識習得の研修 ・移乗用吊り上げ式リフトの導入	・職員・ご利用者双方にとって負担・不安の少ない移乗介助を実施できる ・2名介助が必要なご利用者の移乗介助を1名で対応することでムダを省き業務効率を高めることができる ・介護技術のバラツキなく介助を実施できる（介護の平準化） ・介護技術の向上と介護方法に関する知識レベルのアップ ・ご利用者にとって負担や苦痛感のない生活の実現 ・ご利用者の生活意欲の向上と、生活自体の活性化

ロードマップの具体的内容

目標③：移乗介助・排泄介助の負担を軽減できる

課　題	解 決 策	予測される効果
②	・役職者の資質向上研修（組織を牽引するリーダーの資質向上） ・ミーティング・会議・委員会の質の向上と議事録作成ツールの導入	・リーダーの資質向上にともなう組織力の向上 ・リーダーと職員のコミュニケーションの質的向上 ・ケアチームとしての課題解決力の向上 ・抜け・漏れのない職員間の連携や情報共有 ・議事録等に費やす時間の削減 ・コンパクトでわかりやすく、情報共有につながる議事録の作成

ロードマップの具体的内容

	目標①	目標②	目標③
４月から	職員補充を待って段階的に疑似ユニット化に移行。インカム購入補助金の申請	マルチグローブ・スタンディングリフトの積極的活用開始 床走行型吊り上げ式リフト購入の補助金申請とリフト使用に向けた職員研修の実施	評価者研修（リーダー以上の役職者研修）の実施：年4回
６月から	疑似ユニット化の進捗状況とその効果の確認と振り返り	移乗介助・排泄介助に関する進捗状況とその効果の確認・振り返り	議事録作成ツールの効果の確認と振り返り
	中間評価	中間評価	中間評価
９月から	インカム導入（最初は入浴介助や夜勤時間帯など、場所・時間を限定して実施）	床走行型吊り上げ式リフト（２～３台）の導入	全ての会議において議事録作成ツールの導入
10月	ア	ンケートを実施	

現時点における取り組み

目標① ケアのバラツキを防ぎ、誰が行っても統一した方法でケアができる

・疑似ユニット化の検討、インカムのデモ商品の試用

目標② 移乗介助・排泄介助の負担を軽減できる

・スタンディングリフトの対象者選定と活用に関する職員教育

・マルチグローブ・ポジショニングクッションの追加購入と、その活用に関する職員教育

目標③ 職員間連携・情報共有の強化

・リーダー3名を各疑似ユニット化したグループの責任者として配置

・人事評価制度にともなう面談後の評価者アンケートの実施

まとめ

・課題を可視化し方向性を明確化
・目的は「介護の価値向上」と再確認
・組織が“動き始めた”ことが最大の成果

今後の展望

・ロードマップの着実な実行
・ケアの統一化と負担軽減の継続
・「作業」から「介護」への転換

⇨ 「ご利用者の生活を変える！」